

[28_2] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
28(2)

<https://doi.org/10.15017/27227>

出版情報 : 図書館情報. 28 (2), pp.9-16, 1992-09-01. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :



九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 28, No. 2 (1992)

目次

• 医学分館長に就任して	9
• CD-ROMの導入をめぐる	10
• 学生証で九州地区国立大学図書館間の 利用が可能になりました	12
• 教養部分館長就任にあたって	13
• 検収文庫の整理と概要について	14
• 平成4年度目録システム講習会(地域講習会)を開催	15

医学分館長に就任して

医学分館長 立 石 潤

平成4年4月1日付、医学分館長に就任致しました。昨日まで外野席で気楽に観戦していましたが、一日にして経営者の立場に変わったのであります。今はただ館員共々この情報化社会の中で、よりよい情報を求めて学生はもとより研究者が円滑に研究できるよう努力しているところでありま。皆様のご協力をお願いいたすところでありま。

ところで、館長就任後、早速、日本医学図書館協会総会に出席することになりました。この総会に出席しての感想を述べ私の挨拶と致します。

さて、総会は平成4年5月28、29両日に北九州市の九州厚生年金会館で開催された。まず63回目(毎年1回開催)という歴史を持つことに驚き、その運営の見事さと出席者の多いことに驚嘆した。これは小さい医学系学会などの規模を超えるものであった。今回の総会のトピックスは「ファジィ情報処理とその医学的応用の可能性」と題された特別講演が九州工業大学の山川烈教授によりなされたことと、「これからの医学図書館の運営と課題」というシンポジウムが開かれたことであろう。前者は筆者の理解を遥かに越えるものであったが、後者は当医学図書館の朝倉一氏が企画に参与、司会も担当されたせいか非常に身近かに感じられた。とくに最近のコンピューターを駆使した情報検索サービスの話題には眼をみはるものがあつた。いかに能率良く、もれなく、早く最新の情報を集めるかに研究者は熱中し、図書館員もこれに協力を惜しまない現状が浮かんて来ようであつた。これは常にヒトよりも早く情報を得たいという研究者に共通の心理によるものであり、これこそが frontier spirit を支えてきた要因かもしれない。しかしこれも度を過ぎれば、文献収集が自分の研究のための手段であることが忘れられ、早く知ること満足し、或はそれを他の目的に使うことにでもなればマイナスであろう。新人が研究を始める際には、文献を一切読む勿れと説いた先輩もあつたと聞く。或は長年、学会には顔を出さない研究者も居るようである。学問の分野によってはこれも妥当なことかもしれない。情報収集に関しても「手段と目的をとり違える勿れ」という一般論に落ちつきそうである。

多くの研究者は現在、如何に多くの情報を集めるかよりも、如何に多くを捨てるかに苦勞しているのではなからうか。逆説的であるが、いわば多くを捨てるために、多くを集めているといえる。この選択こそがコンピューターには出来ない研究者の才覚ではなからうか。前記シンポジウムに出席して、こんなことを考えました。

CD-ROMの導入をめぐる

朝 倉 一

はじめに

情報産業の発達により従来考えもされなかった大量の文字情報や映像が一枚のCDの中に納められるようになった。この結果、最近ではあらゆる分野の情報がCD-ROMの形態に加工出版され、この傾向は年々定着化してきている。その種類も様々で、選択に際しては目的用途に応じて慎重に検討する必要がある。このことについての詳細は後で述べることにするが、ただ単に流行に乗ってこれらのCDや機器を先を争って導入するのはまさに馬鹿げた話である。現在でも購入はしたけれど使わないまま放置された機器がかなりあるのに気付かれることが多々あるだろう。特に希にしか利用することがない辞典、辞書等は高いO.A.機器を購入してこれに当てると言うのは一考すべきであろう。しかしながら、CD-ROM関連のシステムは私達の情報活動にかなりの変化をもたらしたことは事実であり今後さらにこの影響は顕著に現れるであろう。シンガポール大学の医学図書館にいる私の知人がこれをとらえて「図書館におけるCD-ROMの利用は図書館にとって新しい波であり新しい問題である」と述べている。確かに新しい波であり大きな出来事である。私達はこの波に呑込まれないようにサーフィン・ボードをうまく操りこの素晴らしい波を上手に利用しなければならない。それには上手に乗り切るための技術と知識を修得することが第一である。それではCD-ROMの出現は私達の生活環境にどのような影響を与えているのだろうか。先に述べたように確かにCDは大変な容量の持ち主である。私達はこのようなシステムを考える時すぐに従来のフロッピーディスクやマイクロ・フィルムとかマイクロ・フィッシュ等と比較をしてしまう。これらは永久保存性の面から取り上げると決して劣っているわけではない。収納して検索を行うと言う目的には変わりはない。しかしながら、前も述べたように容量の大きさと検索機能の迅速性から言えば、この勝敗は明らかで、明らかに比較するとすればオン・ラインとCD-ROMの対決になろう。したがって、私達はこのようなシステムを導入するにあたっては次のような事柄を配慮すべきであろう。

- | | |
|---------------------|-------------|
| 1. 導入の目的の明確性 | 4. 使い勝手 |
| 2. 投資に値するだけの価値があるか | 1) 利用者にとって |
| 3. 導入後のランニング・コストの分担 | 2) 図書館員にとって |
| 1) 受益者個人の負担とする | |
| 2) 受益部局負担とする | |

さて、私達がここで対象にするCD-ROMは二次資料と呼ばれる、つまり一次資料へアクセスするための索引誌や抄録誌である。現在、多くの図書館がCD-ROMを導入しスタンドアローン方式でサービスを行っていると思われる。このスタンドアローン方式は利用者が1名に限定されるので、多くの利用者が平等に使うために使用時間を最初から決めておく必要がある。検索可能枚数は1枚単位であると共にCDをその都度交換しなければならないので、遡及検索を行う場合にはかなりの時間を要することになる。CD-ROMサーバーの場合はこのような面倒くささはなく最近では5枚まで同時に検索が可能であるため非常に便利となった。但し、スタンドアローンと比較すると高価であるため、

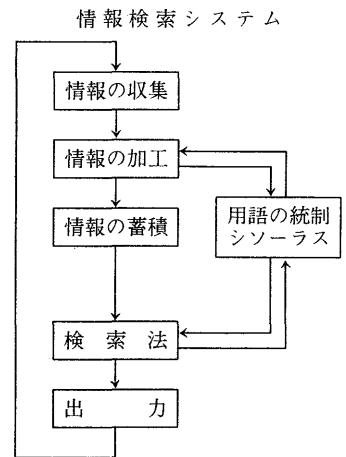
価格面だけで比較すると6台以上端末を設置しないと収支は決算できないが、検索の早さと利用者の利便性を考えると遥かにスタンドアロンを越えるシステムであると言える。すでに、当館の館内システムは平成4年3月に完成し現在4台の端末を利用に供しているが、利用が多いためさらに近近端末2台の増設を準備中である。何れにしても、利用者に被害を与えないため私達はこのようなシステムの内容をよく理解しておくことである。特にタイムラグと収載誌数は情報を収集するうえにおいて研究者にとっては最も重要な要素である。

タイムラグと収載誌数の比較

資 料 名	収録誌数 1992現在	タイムラグ
INDEX MEDICUS	3,000	約3月～6月
CD-ROM (MEDLINE)	3,200	2月～5月
MEDLINE	3,700	1月～4月

館員教育と利用者指導

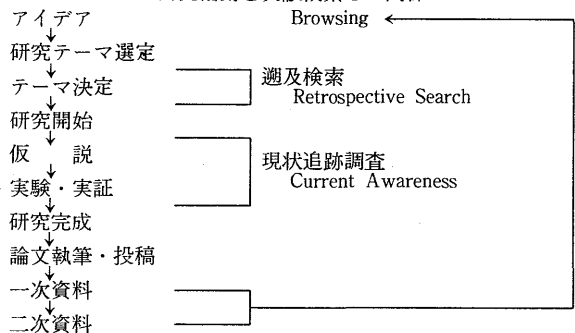
新しいシステムを導入するにあたり必要になるのが、利用者教育であるが、CD-ROMのように直接利用者が最終的に操作する機器は館員も利用者も同じ場所で同時に内容も同一のテキストを使って行った方が結果的には良いようである。むしろ、利用者の方が学問的には知識があるわけで、今後は利用者がサーチャーになるためにもより好ましい方向であろうと思慮される。私はこれを起点としてサーチャーは利用者が図書館員に代わって行うようになる日もそう遠い先ではないと考えている。その時、図書館員がやるべきことは何か、またやらなければならないことは何かを早急に考える必要がある。何故なら利用者はより確かなより精度が高い情報を求めるようになっていくだろうから。情報検索において最も重要なことはキーワードの選択である。このためどのようにして情報が加工され蓄積されたか、加工の段階でキーワード付与はどのように行われたかを、例題を列挙しながら指導しなければならない。言うまでもなく情報の加工は加工した情報の再現を図ることであるから、検索洩れを救済するシステムとして自然語からの検索も可能であるよう配慮してあるので、このこともキーワードと同じように力説する必要がある。館員についての教育は非常に難しい面もあるので、館員個人の知識と環境を思いやりながら教育をすべきであろう。但し指導については差程配慮の必要もなく事務的に行っても問題はないと考えられる。しかしながら、この中から指導者を選ぶのは甚だ時と場合によっては危険である。情報検索の講習会にあたっては、できる限り表や流れ図を使って行った方が理解されるようである。右に示すのが情報の収集から検索までの流れ図である。



また、研究活動と検索の方法もその都度変化があるので、何時どの様な検索を行えば良いのかも研究における情報活動の話の中に是非必要であろう。

CD-ROMの場合は使用時間に対し料金加算の関係がないので、検索前に入念に論理式とかキーワードのチェックなどを行っていないようである。このような行動はオン・ライン検索では見られない傾向であり、少なくともキーワード検索を行わせるよう指導しなければならない。

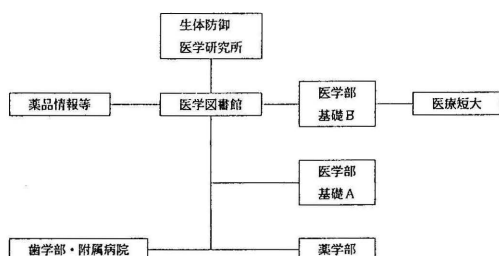
研究活動と文献検索との関係



おわりに

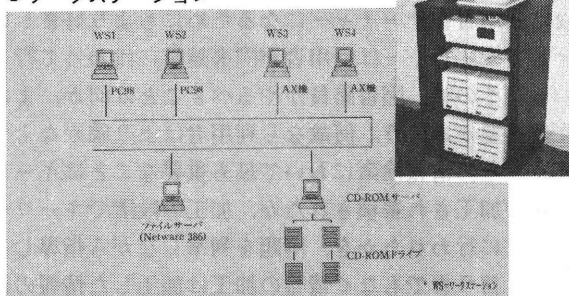
当館では着実にCD-ROM利用が増加してきている一方、オン・ライン検索の利用についても、CD-ROMを導入して以来効果的に使われるようになったようである。CD-ROMは決して無料ではない、大変高価なものである。この維持費は皆さんのご協力により成り立っていることをお忘れにならないように。そして安いのか高いかは私達の使い方にかかっている。今後はさらに目的と用途に合わせてCD-ROM検索を行うのか、オン・ライン検索を行うかの判断と決定は研究活動に少なからず影響を及ぼすので絶えず留意すべき点であろう。現在、当館では利用者の便利さを考えCD-ROMセンターを目指して、キャンパス・LANを計画中である。次の図に示すのが現在の構想である。関係者のご協力を願ってやまない。

キャンパス・LAN構想図



CD-ROMサーバシステム

●ワークステーション



(医学分館 図書館専門員)

((お 知 ら せ))

学生証で九州地区国立大学図書館間の 利用が可能になりました

平成4年4月23日に開催された九州地区国立大学図書館協議会において「九州地区国立大学図書館間の学生証による利用について」が討議され、その結果、実施が決定されました。

この件につきましては、以前から実務者連絡会議で度々話題になってきたことですが、平成3年9月26日に開催された九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議で正式に合意に達し、協議会での討議事項として提出されていたものです。

従来、学生が他館を利用する場合は「利用願い」の提出が必須でしたが、この決定により、九州地区の国立大学図書館に限っては入館の際、学生証の提示でよいことになりました。ただし、各館により利用許可条件が違いますので、他館を利用する場合は事前に「相互利用の手引」で開館時間や注意事項を確認してください。この手引は附属図書館、医学・教養部分館および各学部図書室で備え付けています。

(情報サービス課 相互利用掛)

教養部分館長就任にあたって

教養部分館長 福 田 殖

清水孝純前分館長の後任として、4月1日付で教養部分館長の任に就くこととなりましたので、ここに一言ご挨拶申し上げます。

教養部の図書館は九州大学に入学して最初に利用する図書館であり、キャンパスライフにとって最も重要な場所の一つではないかと思います。六本松キャンパスの桜花が咲き匂う頃、清新潑刺な新入生諸君が目を輝かしながら図書館に入館してくるのを迎えるのは、図書館員にとって、いつも変らぬ喜びです。

全学部 of 学生諸君が、学習の場所として、くつろぎの場所として、情報交換の場所として図書館を利用します。なかでも前・後期の定期試験の前には多数の学生諸君で満館の状況を呈します。この時期に最大の利用率を示すのは、どの大学でも同じ現象だと思いますが、若い学生諸君で活気に満ちあふれ、図書館も大いに満足げのようです。

教養部分館では本年度から土曜閉庁という新制度にともなって、当初は土曜日を閉館することに決めていましたが、その後いろいろと協議した結果、中央館・医学分館と同様に土曜日も開館することにし、5月9日から実施しました。学生諸君の利用も最近徐々に増加しつつあり、土曜開館にふみきったことはまちがっていなかったと思っています。統計資料によりますと、現在のところ国立大学の中央館で73%、分館で52%だそうです。週5日制に移行すれば、その分かえって図書館の利用度数は増加する傾向にあるのかなと思ったりしています。

教養部分館が今のような瀟洒な建物に建て替えられたのは12年前のことです。古くなった本館に比べて外観は大変に立派で、新入生諸君も喜んで図書館に足を運んでくれます。蔵書数も30数万冊に及び、旧玉泉館所蔵の考古資料や古文書資料も受け入れ、また中国戯劇関係のコレクションとしてユニークな浜文庫など、分館としては全国に誇るに足るものを備えていると自負しています。また珍しいものとしては「大元至正軍営宝鈔」10枚(八波武氏寄贈)や宋版の『仏説仁王護国般若波羅蜜經』二卷(頼山陽の識語あり、昭和38.1.29受入)などがあります。

しかしながら外観の華やかさや蔵書物件の豊かさとはうらはらに、図書館運営の内実は、当分館には限らないと思いますが、火の車なのです。例えば図書購入費として使える額は、いろいろな事情により、比率としては年々減少の傾向にあります。また年一度教官各位に購入図書の推薦を願っていますが、年一回ではどうしても時宜に適した選書ができないうらみがあります。前者については予算がともなう問題ですので一朝一夕には解決できませんが、後者については今後検討課題としていきたいと思っています。

つねづね学生諸君からはいろいろな形で要望等が出され、できる範囲で対応してきましたが、最近では留学生の方からも鋭い指摘と適切な要望が出てきております。どこまでできるか限度がありますが、少しでも改善していきたいと思っています。

本分館には受入・目録・閲覧の三つの掛があり、通常の図書館運営の業務にたずさわっていますが、その上に不定期的に大量の寄贈図書等が入ると業務が加重されることになるため、館員の苦労は並大抵のものではありません。そのご尽力には常々感謝致しております。

昭和63年に九大名誉教授、故松垣元吉先生のご遺族から歴大なる所蔵品が寄贈され、松垣文庫として目下整理中です。平成2年度には九大名誉教授、故三上正利先生のご遺族から、平成3年度には言語文化部の故長屋代蔵先生のご遺族から、それぞれ所蔵図書が寄贈され、三上文庫、長屋文庫として目下整理中です。松垣文庫は古文書30,000点、和装本2,500冊、洋装本9,300冊、民具・骨董類500点、書画軸物類300点、雑誌類200種等多岐にわたるコレクションのため、学内外の専門家に協力していただいて整理を進めてまいりましたが、今秋一応の整理(全部が完了するのはなお時間がかかります。目録等が完備するには相当の年月を要す見込)ができたところで、公開は無理としても、一応の公表をしたいと思います。これらについては、現在、松垣文庫整理対策委員会委員長としてご尽力頂いている吉田昌彦先生にお願いして、本情報紙に、その詳細を書いてもらっていますので、ご参照下さい。

近い将来、新キャンパスへの移転が行われるでありますが、そうなると図書館は大学の情報

センターとして益々重要度を増していくものと思います。館員の皆さんと共に今後とも図書館のために尽力していきたいと思っています。

桧垣文庫の整理と概要について

吉 田 昌 彦

本文庫は、長く本学教養部において国史学を担当された故桧垣元吉名誉教授の遺蔵資料の寄贈を受けて教養部分館に設けられたものである。

故桧垣元吉名誉教授の主要テーマは近世北部九州史であり、その主要業績は『近世北部九州諸藩史の研究』(九州大学出版会)にまとめられている。また、福岡藩政史の基本史料である『吉田家伝録』や博多に関する根本史料である『石城志』の校訂にその史料に対する深い造詣を垣間見ることができる。さらには原始から現代にいたる問題関心の幅広さを反映してか、考古・民俗資料から古文書・和漢籍、さらには現代資料にいたるまでの膨大な史料群を幅広く収集されていることでも有名であった。

桧垣名誉教授は昭和44年に退官され昭和63年に逝去されたが、その後、ご子息の桧垣御楯氏から教養部国史学担当の山口宗之教授のもとに遺蔵資料寄贈のお話があった。これに対し、教養部分館としても応諾することとなり、当時の分館長清水孝純教授の下に受け入れのための桧垣文庫整理対策委員会が設置され委員長には山口宗之教授(後に退官のため福田殖教授一現分館長一に交代)が就任した。寄贈された資料が活字資料は言うに及ばず美術資料・考古資料・民俗資料から和漢籍・古文書・古記録など広範に及びその数も膨大に上るために教養部外からも広く整理対策委員会委員をお願いすることとなり、顧問に井上忠福岡大学前教授・秀村選三本学経済学部名誉教授、委員には他学からは日本中世史の佐伯弘次福岡大学人文学部助教授(現本学文学部助教授)、本学からは近世国文学の中野三敏教授・日本近世史の丸山雍成教授・日本美術史の菊竹淳一助教授・藩政史の柴多一雄講師、経済学部からは日本経済史の松下志朗教授に就任をお願いした。そして、整理実務には、文学部大学院生・研究生・OB・学部生やパートの方を中心に体制を作って膨大な日常業務に取り組んで来た。

このような整理体制を組め約4年に及ぶ受け入れ作業を継続し得たのは前述の先生方の好意と図書館本館や教養部の理解と教養部分館事務部門のバックアップによるものであるが、現時点で判明している桧垣文庫の概要は次のとおりである。

まず、最も点数の多いのは古文書である。数量にして約3万点、段ボールの資料保存箱にすると400箱に迫る量である。時代的には中世から近代まで幅広い年代的スパンと九州から近畿までの地域的広がりを持っている。

中世史料の数は、写しを含めても他の時代に比し極めて少ないが、その中心は北部九州関係の紙文書であるが、なかには「豊後国図田帳」(弘安8年、写)なども存在している。近世史料の数は、近代史料ともに双璧をなしている。これらのなかには豊臣秀吉や黒田長政などをはじめとする近世確立期の著名な人物の史料が存在するが、注目すべきは、一定地域の史料をほぼ網羅しているのではないと思われる史料群が複数存在している点である。その代表的な例は筑前国早良郡金武村関係史料で税徴収・土地所有・戸籍などの基本的台帳のほかには村財政から個人的な帳簿・覚え・借用証などが存在し、その数は整理ずみのものだけでも2,800点を超えている。また、京都・博多・唐津など町方史料も豊富であり、藩政史料も九州諸藩をほぼ網羅しているが宇和島・山口藩など九州以外に関するものもある。また、近代史料も豊富で前述の金武村史料も多数存在している。明治0年代の近代国家への移行過程を示すものや鉄道建設や寄生地主制など地方における日本資本主義形成過程を考える上で有益なものも多い。

次に和書・漢籍についてであるが、その数は約2,300冊、その内容は近世・近代の文学・儒教仏教関係典籍・史書・記録・医学書・教科書など多岐にわたっており、特に九州俳壇関係資料の収集に特色がある。

洋装本は登録を完了したのは約1万冊であるが、伝記・地方史・石炭史・女性史・軍事史・民俗

学・茶道・武道などが主な柱であるが、すでに廃棄されてしまっているであろう行政史料やパンフレットの類も多く、本文庫の特色をなしている。また、文学書も多く、初版本も散見される。

雑誌は、戦前・戦中・戦後(直後)のものが多数存在しており、「自由党報」「青踏」「滑稽新聞」、さらにはカストリ雑誌など貴重なものが残されている。

美術品は、高麗青磁の収集に見られるように北九州・福岡地方を重点に集められている。また、幕末から明治にかけての下絵師の作品(下絵ではない)が多数あり、今まで下絵以外知られていなかった下絵師の作品を見ることができ貴重なものといえよう。また、多数の錦絵のコレクションもある。

(教養部 助教授)

平成4年度目録システム講習会 (地域講習会) を開催

このたび、標記の講習会を学術情報センターとの共催により、6月8日(月)～12日(金)、6月16日(火)～19日(金)の日程で当館に於いて開催した。本講習会は学術情報センターの目録所在情報サービスの一層の推進と、目録業務担当者のシステムの運用に関する知識・技術を修得させる目的で実施されるものである。近年、各大学図書館と学術情報センターとの間でネットワークシステムへの接続館が増加し、今回は他大学から8名(内訳：九州産業大学2名、福岡工業大学2名、福岡大学、西南学院大学、徳山大学および佐賀医科大学各1名)、学内から8名(内訳：中央館3名、医学分館、法学部、経済学部、理学部および農学部各1名)計16名の受講者があった。学術情報センターから講師を迎え、当館および佐賀医科大学の講師によって、講義・実習がカリキュラムどおり進められた。実習では講師の他に第一・二目録情報掛からアシスタントも加わり、受講者とのマンツーマン体制をとり、実習のペースも足並を揃えた内容であったので、受講者には好評であった。学術情報センターでは、今年度からILL(図書館間相互貸借)システムのサービスを開始し、目録所在情報サービスのための総合目録データベースが更に有効活用されるようになった。学内においては、OPAC(利用者用オンライン目録)によるオンライン検索サービスが本年5月20日(水)から開始、館内の利用者用端末も増設され、より一層の図書館情報サービスが充実・拡大の方向へ進んでいる。本講習会も今年度で5回目を数え、講習修了者は100名余となった。今回の他大学及び学内修了者には村上館長、近藤事務部長からそれぞれ学術情報センター所長の修了証明書が手渡された。2週間にわたる講習会に対して、日常業務や実習用端末の台数などの諸事情もあったが、館内挙げての協力により無事閉講式を終えた。講師・アシスタントの方々や関係者に対して感謝の念で一杯である。なお、講師および講義内容は次のとおりである。

(情報システム課)

1. 講 師

酒 井 清 彦
(学術情報センター目録情報課係長)
小 寺 正 一
(学術情報センター目録情報課)
濱 崎 修 一
(九州大学附属図書館)
益 森 治 巳
(九州大学附属図書館)
木 村 優
(九州大学医学分館)
渡 邊 由紀子
(九州大学附属図書館)
原 田 紀 子
(九州大学文学部)
瓜 生 照 久
(九州大学附属図書館)
林 田 和 政
(佐賀医科大学附属図書館)

2. 講 義 内 容

第1日目	6月8日(月)	目録システム概論 目録情報の基準Ⅰ(図書) 目録検索総論・検索技法
第2日目	6月9日(火) 16日(火)	端末操作法・端末操作実習 検索実習 目録登録総論 登録実習(書誌階層なし)
第3日目	6月10日(水) 17日(水)	登録実習(書誌階層あり) 登録実習(出版物理単位)
第4日目	6月11日(木) 18日(木)	目録情報の基準Ⅱ(雑誌) 雑誌登録実習(所蔵・書誌)
第5日目	6月12日(金) 19日(金)	雑誌登録実習(書誌) 図書・雑誌登録実習(課題) レビュー まとめ(質疑)

鳴野学術情報課長、本学附属図書館を視察

去る5月28日、文部省学術国際局の鳴野学術情報課長(現、放送大学学園総務部長)が、本学を訪れ、附属図書館、大型計算機センター、アイソトープ総合センター、医学部附属動物実験施設等を視察した。

附属図書館では、まず館長室で村上館長、近藤事務部長等から附属図書館の概要、4月から本稼動した無手順OPAC(利用者用オンライン目録)等の新規事業について説明を受けた。その後館内を回り、浜崎システム管理掛長から無手順OPACの検索実演、落石専門員から貴重図書の説明を受け、約1時間半にわたり熱心に視察された。

本学教官・名誉教授著作寄贈図書

＜中央図書館＞

徳本 正彦 (法)
「福岡県議会史」第5巻
福岡県議会 1991

高橋 憲一 (養)
「The Medieval Latin Traditions of Euclid's Catoptrica」
Kyushu University Press 1992

浅野長一郎 (理)
「データとデータ解析」
放送大学教育振興会 1992

上村 卓也 (医)
「めまいとその周辺」
耳鼻と臨床会 1992

＜中央図書館・教養部分館・経済学部図書室＞

伊藤 弘文 (経)
「入門 地方財政」
ぎょうせい 1992

＜教養部分館＞

秋吉 勝廣 (言)
「^{ビエン} ^{ザー} ^{リン} 之琳詩集」
土曜美術社 1992

辛島 正雄 (養)

「新日本古典文学体系 26」 辛島正雄校注
岩波書店 1992

清水 展 (養)

「文化のなかの政治：フィリピン「二月革命」の物語」
弘文堂 1991

＜文学部図書室＞

川勝 守 (文)
「明清江南農業経済史研究」
東京大学出版会 1992

町田 三郎 (文)
「日本幕末以来之漢学家及其著述」
文史哲出版社 (台北市) 1992

＜経済学部図書室＞

西村 明 (経)
日中会計・統計制度の比較：日中共同シンポジウム
九州大学出版会 1992

◆ 日 録 (平成4年6月～7月)

- 6. 4 資料保存に関する調査研究班ワーキンググループ会議 (長崎大学)
- 5 館内掛長会議・全学図書系掛長会議・全学図書系掛長研修会
- 8 目録システム講習会 (学外者) 12日まで
- 16 同 (学内者) 19日まで
- 22 ラテン語講習会中級 (第2回)
- 25 第39回国立大学図書館協議会総会 (帯広市民文化ホール) 26日まで

- 7. 2 第2次文系研究図書館問題ワーキンググループ (長期) 会議
- 15 全学図書系掛長会議
- 17 学内LAN対策会議
- 20 ラテン語講習会中級 (第3回)
- 23 第5回日米大学図書館会議代表団会議 (東京大学)
- 24 図書系掛長研修会 (医分館)
- 福岡県・佐賀県大学図書館協議会 (九州産業大学)
- 30 システム検討ワーキンググループ会議

編集委員 主査・松本 連蔵, 委員・山田 律子, 光安 信人, 浜崎 修一, 出島 照義, 園田 国昭,
古賀 幸成, 吉村 俊亮, 青柳 良輔

九州大学附属図書館報「図書館情報」 Vol. 28, No. 2 (通巻164号)

1992年9月1日・発行人 近藤 禧禎 男

発行所 九州大学附属図書館・〒811福岡市東区箱崎6丁目10番1号 電話 641-1101 内線 2454